

巻頭言

情報科学研究センター所長
中 村 俊 子

昨年度、学校法人城西大学は創立 50 周年を迎え、これまでの歩みを振り返るとともに、次のステップへの新たな一步を踏み出しました。

昭和 22 年に制定された教育基本法は平成 18 年に約 60 年ぶりに改正され、それを踏まえた現行の高等学校学習指導要領が平成 21 年 3 月に公示されました。学習指導要領が先行実施された理数系の科目を新課程で学んだ新入生たちが昨年度より大学に進学してきており、今年度からは各教科・科目を新課程で学んだ新入生たちが大学に進学してきています。このように大学での教育においても節目を迎えています。

現行の学習指導要領では、21 世紀を新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」の時代と称しています。実際、近年の科学技術の発展は目覚ましいものがあります。特に、インターネットやコンピュータを代表とする情報科学の進歩は私たちの日々の生活様式を一変させつつあります。

便利な世の中になってきている一方で最近、知人との会話の中で、PC 操作に慣れていない若者が増えてきていることが話題になりました。大学の授業でも文字やコマンド入力に時間がかかったり、タイプミスが多いなどキーボード入力に慣れていない学生が増えてきているように思います。これまで PC を用いて行ってきた情報収集や情報伝達の手段が、スマートフォンなどフリック入力できる機器に変わってきていることが背景にあるようです。レポートをスマートフォンで作成する学生もいると耳にします。IT スキルの習得が欠かせない時代にはなりませんが、字を書いたり筆算をしたりと紙と鉛筆で行う学習も大切にしたいと感じています。

さて、1 年半ぶりに『城西情報科学研究』を発刊する運びとなりました。今号には、薬学部の出席管理システムに関する「報告」1 編とテレビ CM における広告塔スポーツ選手のもつイメージ調査に関する「研究ノート」1 編のご投稿がありました。出席管理は単位認定や退学者対策をはじめ、どの学部にとっても重要なテーマの 1 つです。テレビ CM の宣伝効果についての研究ノートは、大学広報、例えばパンフレットやホームページへの掲載写真を選ぶ際の参考になりそうです。どちらの原稿も大変興味深く拝読しました。

引き続き、皆様からの『城西情報科学研究』への「研究論文」「研究ノート」「報告」のご投稿をお待ちしています。